

第3回JA改革検討委員会（12/19(金)）・委員意見<<要旨>>

白鷗大学経営学部 教授 柳川高行委員

- 「JAグループの自己改革について」はきれいな資料で、「自律的に」「効率的に」「強化」など言葉は踊っているが、具体的にどう目標を実現するのかが書かれていない。
- あれもこれもの総花的なものはいかぬ。具体的なアクションプランと役割分担を明確にする必要がある。

栃木県農業会議 会長 国井正幸委員

- 協同組合は協同組合原則に則って、長い間継承されてきた。これまでの経験則は大変重要である。自己改革はあらためて原則に沿って役職員が取り組んでいるかどうか考えれば良い。今こそ役職員が一体となって真剣に取り組んでいるか自問すべきである。
- 例えば「買取販売」ばかり脚光をあびるが、これまでの「委託販売」でも大きなメリットはあるわけである。
- JA改革の情勢は当初の予想よりも厳しくなることが考えられる。選挙で自民党が勝ち過ぎた。しかし、卑屈になる必要はなく、自信をもって取り組んでもらいたい。

宇都宮中央法律事務所 弁護士 澤田雄二委員

- 「JAグループの自己改革について」これを全て直ちに実行するのは難しいのではない。内容は多岐に渡っているので、優先順位をつけ、どのように実行していくのかに注力する必要がある。
- また、幅広く国民、政府に理解してもらい取り組みを行うことが重要である。

栃木県生活協同組合連合会 会長理事 竹内明子委員

- JAが果たしてきた役割は非常に大きい、農業生産のみでなく国土保全や環境問題にも十分機能を発揮してきた。これまで取り組んできたことをきちっと表明すべきである。
- 県の安全・安心条例が策定されたのもJAグループと生協連が取り組んできたからである。JAが果たしている役割をもっと積極的に主張するべきである。

下野新聞 取締役主筆 飯島一彦委員

- 単協ではいろいろな議論があるようなので、それをベースに改革に取り組んでもらいたい。
- 地域の中でJAがどう変わるのか、地域住民も見守っている。地域の人口減の中、JAの役割は大きいと思う。分かりやすい形で期待の持てるものになって欲しい。

栃木県農業者懇談会 会長 大山寛委員

- 「JAグループの自己改革について」は形的にはまとまっているが、どう実行していくかがカギである。
- 協議結果をみると、JAの悪いところばかり議論されていると感じる。もっと良いところもアピールするべきである。
- 人口減、高齢化の中、このままでは組合員が減少していく。5年後、10年後にJAがどう変わるのか、今こそ十分に議論すべきである。

栃木県消費者団体連絡協議会 会長 菊池恵子委員

- 消費者代表として、農業が一番大事だと思っている。JAはこれまで一生懸命に取り組んできた。国や安倍総理ももって応援すべきである。
- 水田をみると元気が出る。耕作放棄とならないよう担い手育成に取り組んで欲しい。
- 本県には「にっこり」「とちおとめ」など素晴らしい農産物がある。それぞれの特徴を生かしてJAには頑張ってもらいたい。

JA栃木青年部連盟 副委員長 古橋晃一委員

- 都市部ではこれから農業をやりたいと思っている人も多くいる。新規参入しやすいようJAとして積極的に取り組むべきである。

JA栃木女性会 会長 葛貫郁子委員

- 高齢化が進行してくると、買い物支援や配食サービスなどの取り組みも重要となってくる。
- 一律の改革ではなく、それぞれのJA・地域で必要な取り組みを考えてもらいたい。

栃木県経営者協会 専務理事 石塚洋史委員

- 今まで取り組んできたことを自信をもって主張してもらいたい。
- JAは何のために、誰のためにあるのか、目的を明確にして改革に取り組んで欲しい。

とちぎテレビ 常務取締役 菊池昌彦委員

- どんな組織でも長い間経過すれば組織疲労を起こすものである。真摯に良いところとマイナス面を総括するべきである。
- 外圧で改革するのでなく、要点を押さえて普段から改革の意識を持つことが重要である。

栃木放送 取締役総務局長 蕪木信一委員

- 例えば監査は、外部の機関が実施するのが普通であると一般的には考えられる。よって、農協法上の位置づけなど政府の主張とぶつかるころは、十分な理論武装が必要である。

栃木県酪農協会 会長 石川正美委員

- 酪農団体もこれまで合併等、改革には取り組んできた。
- 組合員の考えを組織の中に組み込むパイプ役として、JA職員の意識を変えることが必要である。

栃木県農業者懇談会 副会長 興野礼子委員

- 「JAグループの自己改革について」が実現できれば素晴らしいことだと思う。なぜ、こんな素晴らしい協同組合に政府はメスを入れるのか、正直分らないというのが印象である。
- 県は農業女子プロジェクトに取り組んでいる。女性にも魅力のある農業とするため、JAにも積極的に取り組んでもらいたいし、そのような新しい発想が必要である。

J Aかみつが 組合長 吉原勝彦委員

- 組合員の要望を踏まえて進めていきたい。

J Aはが野 組合長 黒崎宣芳委員

- 地域に根ざした協同組合としてすでに取り組んでいる。
- その中で、J Aとして足りないものについて取り組んでいきたい。

J Aしもつけ 組合長 神永信男委員

- J A改革は、上からの押し付けと感じており疑念に思っている。
- 従来から、農協改革には取り組んでおりその結果として現在のJ Aの姿があると思っ
ている。しかしながら、現状で良いとは思ってなく、当然変えるべきところは変える必
要がある。

J A佐野 組合長 大芦宏委員

- これまでも改革は少しずつ進めてきたし、今後も進めるべきである。
- 政府の検討は、結論ありきに思える。
- 政府は、利益を上げる経営をとの発言があるが、J Aは協同組合として一定の利益の
もと安定した経営を行い、そのうえで地域に貢献するという非常に難しい経営を行っ
ている。
- 農家は所得倍増よりも安定した農政を望んでいる。
- このような機会なので、農協独自の改革についてもできることから取り組んでいき
たい。

J A足利 組合長 石橋孝雄委員

- 改革案は内容によってはうなずける部分もある。
- 最終的な着地点は、国民が理解できるJ A改革ではないか。
- 都市部の農協として、一番危惧するのは、准組合員の利用制限等のである。今後の検
討の中で、より具体的な改革案を示してほしい。

J Aなすの 組合長 川嶋寛委員

- 政府は、J A改革よりも全中改革を第1の目的としているのではないか。全中を農協
法上に規定する場合と、一般社団法人等による場合で、どのような違いがあるのか確認
したい。
- 全国の様々な規模・地帯のJ Aを一括りで改革するのではなく、それぞれのJ Aの実態
に合った改革が必要。

J Aなす南 組合長 山田清委員

- J A改革は、組合員目線にたって、職員自ら課題意識を持ち、自身を持って進める必
要がある。
- ガソリンスタンドなどについては、損益の問題だけでなく、地域のインフラの一翼を
担う組織としてのあり方も考慮し、施設維持について検討しなければならない。